

オイルクーラー装着モデル オイル交換時のエア抜き作業について

BMW BIKE 二玄社 1983年11月25日発行

BMW メンテナンスノート 指導BMWジャパン 福間氏

「オイル交換」の項より

まずオイルクーラーのホースを外しクーラー内のオイルを出してしまう。

ヘキサゴンレンチを使い各ボルトを外す。外すに際しRS系はカウルに阻まれることもあり、その場合シリンダー下のアンダーカウル固定ボルト及びメイントップカウルとの継ぎビスを外し、フロントアンダーカウルの向かって左側タッピングビスを外せばサイドカウルはフリーになる。これは車によって異なりあなたのRSがそうであるとは限らないが、アンダーカウルを外して走りたい場合覚えておくとう便利だ。その際サイドカウルは排気管を外さなくともシリンダー下の割れ目を広げれば外せる（CM注、初期型は割れ目がないので外せない）

オイルフィルターの交換キットには、右手に持ったゴムのリングがついてくる。
（原本にはイラストあり）

このゴムリングは、入荷時期によって色が異なっていることがあるが、それは気にかける必要はない。装着する順は図の通りで、（イラストあり）順番は絶対に変えてはならない。左手側の金属リングが曲がった場合は、交換する必要がある。エンジンが冷えた状態での始動時、オイル圧は6～8kg/cm²以上である。2kg/cm²前後のタイヤ空気圧ですら指で止めるのは難しいほどだから、このリングにかかる圧力がいかに高く、これが正しい状態に装着されていないとオイルリークをおこす恐れのあることが、容易に想像できよう。このような（イラストあり）ヘキサゴンレンチが工具専門店で売られている。一種のフレキシブルレンチで、かなりの角度まで自由にまわせる。これさえあれば、カウルを外すことなしにフィルターが取り外せる。（ボールポイント式ヘキサゴンレンチ）フィルターは図のように分割タイプとなり、以前の一体タイプのようにエグゾーストを外す必要がなくなった。外す際のコツは、フィルターどうしのジョイントを、フィルターを回しながら探すところにある。もし、あなたのフラットツインのフィルターが一体式だったなら、その場合は金切りバサミを用いればよい。この段階においても、普通のオイル交換の際も、エンジンを回してはならない。その理由は、シリンダー内面の潤滑は吹き出すオイルによって行われているが、フラットツインゆえに水平に置かれたシリンダー上部のオイルは長期間のうちに流れ落ち、全く潤滑されていないことになるからだ。これは水平対向エンジンの根本的な短所といえるが、BMWでは、近年の大排気量化に伴いオイル回路を巧みに仕組んでおり、その心配はなくなった。

すべてを元通りにセットアップしたならば、オイルクーラーのエア抜きをしなくてはならない。

新車時に付いてきたボルトを図のように回し込こんだ後、フューエルコックを閉じ、プラグを抜き、セルによりエンジンを始動する。メーター内のオイルランプが消えるまで回し、消えたらエア抜きは完了である。その後ボルトは元のものにもどしておく事。オイルクーラーからくるホースの左右は、向かって右側は右、左側が左である。この順を間違えぬこと。ボルトのネジを切っている部分の適正な長さは23mmである。古い車種に付属してきたボルトの中にはそれより長いものがあり、その場合はサーモスタット部の破損を招く。エア抜きの場合、いま一度長さを確かめる必要がある。